

欧米における生ごみのリサイクル



江戸川区廃棄物減量等推進審議会副会長
リサイクルシステム研究家
富士常葉大学助教授
むつみや みつあき
松田美夜子

家庭ごみの中で、生ごみ（調理くずや食べ残しなど）は、最も大きな割合を占めています。このため、現在、江戸川区廃棄物減量等推進審議会では、生ごみの減量（リサイクル）について検討をすすめています。今回は第2回審議会（平成12年10月26日開催）で行われた松田美夜子氏の講演の主な内容をご紹介します。



4色のごみ箱

これは、ドイツのどこの都市でも見ることのできる風景です。青・黄・緑・黒の4色のごみ箱が並んでいます。青色のごみ箱には新聞や雑誌、黄色には包装や容器、緑色には生ごみを入れます。この3色のごみ箱は収集が無料ですが、残りのごみを入れる黒いごみ箱は有料です。週1回収集があり、4回で1,800円程の料金です。ごみ箱からあふれると、さらに1,000円位高くなります。州によって違いますが、ごみ箱の大きさや、収集時に重さを計って、ごみの料金を決めています。

ドイツでは、ごみの減量や分別に努力した人はごみ料金が無料に近く、努力しない人は高いお金を出すという仕組みがあります。日本では、ごみを出す量に関係なく、一括の税金でごみ処理が行われるため、がんばってごみを減らしてもその努力が報われない結果となっています。

量り売り

ヨーロッパでは多くの国でレジ袋が有料のため買い物にはカゴなどを持参しますが、ドイツでは、さらにごみを減らすために詰め替え容器を持参しようと消費者団体が呼びかけました。これに35万軒の商店が協力し、たとえば、肉屋では家から持ってきた容器の中にハムや肉を入れてもらいます。

また、ヨーロッパのスーパーでは、くだものなどは1個でも買えるバラ売りのため、よけいな包装をもらわずに済みます。ドイツでも1970年代は、トレイやビニール袋などが目につきましたが、今ではほとんどありません。消費者が行動することによって、企業を変えていくという考え方があるようです。



▲トレイやビニール袋を取り払ってバラ売りになったスーパーのくだもの売場



▲スラリと並ぶリターナブルびん

リターナブルびん

ヨーロッパの飲みものなどの容器は、洗ってくり返し使える「リターナブルびん」が中心で、各国共通で使えます。日本では、ビールびんなどのリターナブルびんの利用が減っていますが、ヨーロッパでは「8年間洗って使え、ごみにならないので、環境に対する負荷が少ない容器」という高い評価があります。ほとんどのびんがデポジット制で、専用の機械にびんを入れると自動的にお金が戻るようになっています。

生ごみは土に返す

ドイツでは、ごみ減量の努力が報われる料金制度を基本に、容器の持参、量り売り、リターナブルびんの利用などさまざまな工夫で、ごみそのものの発生を抑えてきました。

最後のターゲットが生ごみの減量です。

ドイツの庭のある家では、ほとんど自宅で生ごみを堆肥にするので、生ごみ用の緑のごみ箱には、堆肥にしきれない木の枝などが入ります。回収後、それらは細かく刻まれ山などにまかれます。生ごみなどの有機物は、土に返すという考え方が強いようです。オーストリアやスイスでも山に戻していました。

生ごみリサイクル講座

ケルン市のリサイクルセンターでは堆肥づくりに経験豊富な市民グループが行政から委託を受けて、講座や相談会を開いていました。ここは小さな子ども達も訪れ、市民の環境学習の場になっています。「堆肥の上手な作り方」講座は一番人気で、ま



▲ケルン市のリサイクルセンターでの堆肥化の実例

ずここで現物を見ながら経験者に話を聞くわけです。生ごみの堆肥化には、金網や木で囲いを作ったり、古い洗濯機とかバケツを利用するなどいろいろな方法があり、自分にあったものを見つけてやり方を勉強します。ドイツでは、生ごみなどの有機物を自然に戻すことの大切さを多くの人が知っているようです。

スイスやオーストリアでも生ごみを堆肥にしていますが、日本のような生ごみ処理機は見かけませんでした。また、集合住宅に置かれた共同の生ごみ分別箱をいくつか見ましたが、生ごみの分別がしっかりしていて、意識の高さを感じました。

堆肥化アドバイザー制度

最後はアメリカですが、環境問題から清掃工場で焼けないため、クリスマスツリーのヒイラギも堆肥にしています。アメリカには堆肥化のアドバイザー制度があり、研修を受けて資格を持った人が、地域で有償ボランティアとして活動しています。

このボランティアによる講習会が各地で開かれていて、生ごみリサイクルを地域に広めていました。

このように、欧米では、いろいろな方法で生ごみリサイクルが行われ、講習会やアド

バイザー制度などにより、地域のなかで市民が中心になって取り組みがすすめられていました。

また、ヨーロッパはもちろんアメリカでも日本のように大量の食べ残しや手つかずの食品ごみを見かけることはありませんでした。

生ごみの減量に向けて、江戸川区でもさまざまな取り組みができると期待しています。

江戸川区廃棄物減量等推進審議会



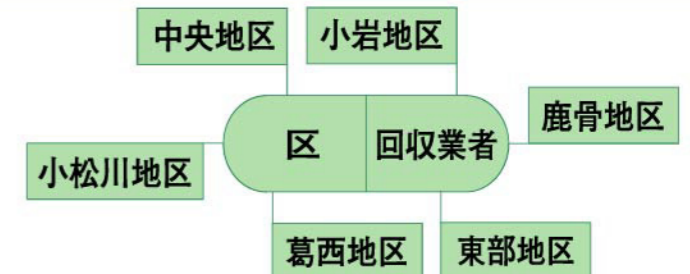
区民代表、事業者、学識経験者、区議会議員など15名の委員により清掃・リサイクル事業に関して、江戸川区らしい施策の実現に向けて、審議を行っています。

今年度は、第1回が8月2日、第2回が10月26日に開催され、生ごみの減量については、専門部会を設けて検討をすすめています。

6地区で集団回収連絡会を開催

小岩地区11/16 葛西地区12/8
鹿骨地区12/6 小松川地区12/13

中央地区・東部地区に引続き、4地区で開催し、集団回収の活性化に向けた話し合いが行われました。



困った!・悩んだ!・こんなお話も…

★どうして、回収量が減ってしまうの?

- 資源回収事業を集団回収（廃品回収）と間違われる方がいて、一時回収量が減りました。回覧や役員の説明で、現在は回収量も回復しています。
- 長年、ごみ集積所を集団回収場所として利用してきましたが、資源回収日と曜日が重なって戸惑いました。集団回収日も定着していたので清掃事務所と調整した結果、回収も順調にすすんでいます。

★小さなボランティアとして集団回収を始めました。汗をかいたあとの世代をこえた語りを楽しみにがんばっています。

回収量UPにひと工夫

- ★前回の資源回収量と売上金を明記した回収日のお知らせやポスターを貼り出しています。
- ★町会・自治会未加入者もいるので、回覧と当日に広報車でお知らせしています。
- ★町会の皆さんに「ごみとして出せばお金（税金）がかかる、集団回収に出せばお金（報奨金）が入る」と訴えかけて協力者を増やしました。
- ★台車やリヤカーで町内を巡回して回収しています。
- ★協力家庭に再生トイレトペーパーを配布して、「資源が循環してこそ真のリサイクル」ということをPRしています。
- ★子どもたちに回収したアルミ缶と引き換えにカードを渡し、年度末に枚数に応じてプレゼントを配っています。

現在、製作・検討中です

1. 雨よけシート
雨よけとともに「持ち去り防止」コメントを入れたシートが3月上旬に完成予定です。
2. 集団回収マップ・カレンダー
回収日・回収場所をお知らせして、集団回収への参加を促進します。

※出来上がりの次第、お知らせします

※この他にも、皆さんからご意見等が出されましたが、紙面の都合で全てご紹介できません。ご了承願います。（編集部）

集団回収連絡会 出席団体

<集団回収団体>

【小岩地区】小岩東部町会・上小岩六東自治会・小岩二東町会・小岩西南子ども会・くすのき小岩田寿会・上一色南部町会・くすのき五北長寿会・下小岩若竹子ども会・白ゆりグループ・くすのき上一色南部親交会【鹿骨地区】春江町団地自治会・鹿骨二丁目子ども会・篠崎七丁目町会・篠崎本郷子供会・鹿骨三丁目町会育成部・北篠崎二丁目自治会・松の子子ども会育成会・新堀子ども会・篠崎第五小学校PTA・篠崎第二小学校PTA・西篠崎子ども会【葛西地区】公社新田住宅自治会・なぎさニュータウン自治会・公社堀江住宅・長島町会・清新町都営住宅自治会・宇喜田十八軒自治会・西船堀町会・船堀中央町会・なぎさニュータウン管理組合・宇喜田新町自治会・第六葛西小学校PTA・清新北ハイイツ自治会・船堀第二小学校PTA【小松川地区】平井西小学校PTA・東親会青年部・くすのき宮元第一福寿会・小松川パークマンション団地自治会・平井六丁目東町会婦人部・平井東自治会青年部・平井一丁目南親会婦人部・くすのき平井二丁目福寿会・くすのき善正友の会（順不同） ※今回は各地区で11年度の回収量が多い団体にお集まりいただきました。

【回収業者】
江戸川区リサイクル業者会
【事務局】
環境清掃部清掃・リサイクル課